

女神によって創造された北アフリカ最大の海洋国家

古代カルタゴ 350-320BC ゾイジターナ スターテル金貨

【発行枚数】不明【サイズ】19.00mm/9.16g

【希少性】★★★

【ご案内価格】2,000,000円～（税込）



表面：穀物の髪飾りを付けた豊穡の女神タニト
裏面：馬（国の強さを図る指標として使用されていた）

カルタゴ (Carthage)



アフリカ最北端、現在のチュニジア共和国に存在した古代都市国家。
ゾイジターナとはカルタゴ内部の「アフリカ属州」と呼ばれる地域の一つで、
現在は歴史的な遺跡のある観光地となっている。

漁業、農業、金銀の産出、象牙の貿易等でアフリカで最も栄えた都市として知られた。
広大なチュニス湾を背にした事から軍事的に非常に有利な地形を持ち、周辺国家を支配。
制海権を巡り海の向こうローマ帝国と戦ったポエニ戦争は3回も勃発した。
かの闘将ハンニバルにより善戦するもローマのスキピオによって陥落し、カルタゴは徹底的に破壊された。
紀元前29年にはローマ属州アフリカとして復興し、かつての賑わいを取り戻したという。

貨幣鑄造が始まってから100年程経ってから鑄造されたこのスターテル金貨は、馬の機動力が国の運命を左右していた時代（=戦争で使用される騎馬技術、すなわち戦闘用馬車チャリオットの力）において、対外に自分達がどれだけ力を持っていたか示す重要な意味を持っていた。



チャリオット（戦闘馬車）



女神タニト

彼女の祈りによって砂漠に雨が降ったという。

戦術のカリスマを描いた最も人気のある古代コイン

古代マケドニア 336-323BC アレキサンダー大王 スターテル金貨

【発行枚数】不明【サイズ】18.00mm/8.62g

【希少性】★★★★

【ご案内価格】1,500,000円～（税込）



表面：コリントス式兜を被った戦術の女神アテナ

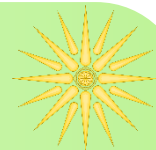
裏面：右手に月桂冠、左手にスタイラス（石板に文字を刻むペン）を持った勝利の女神ニケ

ΑΛΕΞΑΝΔΡΟΥ（アレキサンドロス）

アレキサンダー大王（Alexander The Great）

在位：紀元前336年 - 紀元前323年

生没：紀元前356年7月20日 - 紀元前323年6月10日（32歳没）



古代マケドニア王国（現在のギリシャからインドまでの世界）を治めた大王。

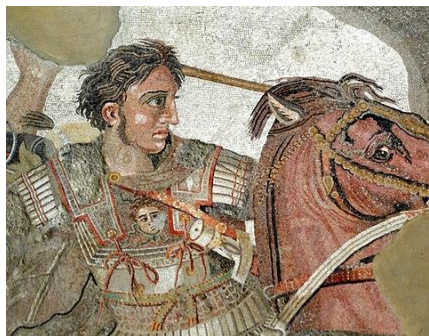
かのフランス皇帝ナポレオン・ボナパルトも尊敬していたと言われており、2300年前の人物にも関わらず現代においても戦術のカリスマとして高い人気を誇る。

当社代表西村が指輪にしているのもこちらのコイン。

現存枚数は約4000枚（2023年時点）と少なくはないが、古代コインの人気を考えると5,000,000円以下で最もお勧めできるコインである。

存命の人物を貨幣に描いてはならないという掟があった為、コインの肖像は大王本人ではなく女神をイメージしている。

アレキサンダー大王の死後はマケドニア王国が分裂するが、それぞれの国王がアレキサンダー大王を神として貨幣に描き始めた。



アレキサンダー大王のモザイク画

最大の戦いと言われるイッソスの戦いを描いたモザイク画は紀元前120年頃に作成された。

アテナ (Athena)

アテナは戦術の女神ではあるが、敵を侵略する事ではなく防衛を得意としていた。

ニケ (NIKE)

ルーブル美術館に貯蔵されている「サモトラケのニケ」として有名な勝利の女神が裏面に刻印されている。

古代エジプトを支配し、死後女神となった女王

古代プトレマイオス朝エジプト 277-270/268BC アルシノエ2世 オクタドラクマ金貨

【発行枚数】不明【サイズ】27.00mm/27.66g【希少性】★★★★

【ご案内価格】3,000,000円～（税込）



表面：パールを被ったアルシノエ2世

死を意味するパールと、頭部に花が飾られている事からも死後鑄造された物と推測される。

裏面：豊穡の角コルヌコピア

左側にΑΡΣΙΝΟΗΣ（アルシノエ）/右側にΦΙΛΑΔΕΛΦΟΥ（プトレマイオス2世ピラデルポス=きょうだい愛）

アルシノエ2世ピラデルポス (Arsinoë II Philadelphos)

在位：紀元前300年頃 - 紀元前279年

生没：紀元前316年頃 - 紀元前270年7月9日もしくは268年7月16日

アレキサンドロス3世の死後、後継者争い（ディアドコイ戦争）でエジプトを支配したプトレマイオス1世の娘。（彼女にとってアレキサンドロス3世は父親の上司という事になる）

15歳の時に将軍リュシマコス（60歳）と結婚し2人の子を授かるが、目の前で2番目の夫に殺害される。最終的に子孫を残すためにエジプト王であった実弟と結婚し、弟の持っていた権力を手にした。

「きょうだい」で結婚し国を統治するという考えは王家の神秘性を保つ為に始められた。（下界の人間の血は汚れている、というハプスブルク家に繋がる考えである）

そこには近親相姦という道徳律、劣性遺伝の原則などといった考えは1ミリも無かった。

「きょうだい」で結婚した者は「ピラデルポス（きょうだい愛）」というありがたい異名を名乗る事が出来た。

死後女神として崇められたアルシノエ2世。彼女を追悼する為に鑄造されたのがこちらの金貨である。



コルヌコピア (Cornucopia)

紀元前5世紀頃からギリシャ神話に登場する豊かさの象徴であり、「豊穡の角（ほうじょうのつ）」と呼ばれる。

綺麗な花と果物があふれるイメージは「発行元の国がどれだけ大きな力と富を持っていたか」と示す。

「尊厳者」という名を与えられたローマ帝国初代皇帝

古代ローマ 14AD アウグストゥス アウレウス金貨

【発行枚数】 不明 【サイズ】 20.00mm/7.86g

【希少性】 ★★★★★

【ご案内価格】 4,500,000円～（税込）



表面：アウグストゥスの肖像
AVGVSTVS（アウグストゥス）

裏面：月桂冠と中心にOB CIVIS SERVATOS（ローマ市民を救いし皇帝）

アウグストゥス (Augustus)

在位：紀元前27年1月16日 - 14年8月19日

生没：紀元前63年9月23日 - 14年8月19日（75歳没）

元々の名を**オクタヴィアヌス**と言い、アウグストゥスというのは元老院からオクタヴィアヌスに与えられた「尊厳者」という意味の言葉。

このアウグストゥスという言葉は8月（August）の語源にもなっている。（アウグストゥス自身の誕生日は9月だが皇帝即位が8月の為）

ローマ帝国初代皇帝として地中海を征服しパクス・ロマーナ（ローマの平和）を実現、自身の功績を「神君アウグストゥスの業績録」として碑文に残した。

ローマ帝国 (Imperium Romanum)

紀元前8世紀頃にイタリア中部に建てられた都市国家から始まり、オクタヴィアヌスが皇帝として即位してからは帝国となる。

96年から180年は最盛期となり現在のトルコ、アフリカ、イギリスまでも含む大国に成長する。

395年に東西に分裂、西ローマ帝国は476年に消滅。東ローマ帝国は1453年まで存続した。

芸術・軍事面・政治面で現代社会にも大きく影響を残した帝国である。



ローマ帝国国旗

SPQRとは「ローマの元老院と市民」という意味であり、帝国の栄光を表す。

現代でいうところの「紳士淑女諸君」と同じく演説や挨拶の冒頭でも使われた句である。



銅像から推測されるアウグストゥスの表情

2000年以上続くコイン蒐集の祖となったユダヤ人の財産

古代イスラエル 66-70AD ユダヤ戦争 シェケル銀貨

【発行枚数】不明【サイズ】23.00mm/13.81g

【希少性】★★★★★

【ご案内価格】3,000,000円～（税込）



表面：盃の上に数字（ユダヤ戦争1年～4年）、周りに「イスラエルのシェケル」

裏面：3つのザクロの実、周りに「聖なるエルサレム」

第一次ユダヤ戦（ローマ帝国VSユダヤ人、66-73AD）

6ADからローマ帝国属州（ユダエア）として支配されてきたユダヤ人がパレスチナで起こした反乱。ユダヤ人にまともな武器が無く、広大で強力な帝国を敵にした無謀な戦いになると予測されたが、戦いは長く続いた。

この時ユダヤ人たちは自分達の銀貨「**シェケル**」を作り、神殿税を納める為の硬貨とした。70ADには皇帝の息子ティトゥスが7ヶ月かけてエルサレムを攻略。神殿は破壊され、住民は殺されるか奴隷として売られるかのどちらかとなった。

最終的には73ADのマサダ陥落にて戦争は終結。ユダヤ人の離散が始まる。



ローマ軍兵士が神殿から宝を強奪する様子は81ADに凱旋門にレリーフとして建造され、現在も帝国の情勢を示すシンボルとして残っている。

苦難を乗り越え、第二次世界大戦で国民を鼓舞した英国王

英国 1937年 ジョージ6世 5ポンド金貨

【発行枚数】 5,500枚 【サイズ】 35.50mm/39.94 g

【希少性】 ★★★★★

【ご案内価格】 4,000,000円～ (税込)



表面：ジョージ6世の肖像

GEORGIVS VI D:G:BR:OMN:REX F:D:IND:IMP.

(神の恩寵によるジョージ6世、英国王にしてインド帝国皇帝)

裏面：聖ジョージと竜退治

5時位置にB.P.(ベネディット・ピストルッチ=デザイナーのイニシャル)

ジョージ6世 (George VI)



在位：1936年12月11日 - 1952年2月6日

生没：1895年12月14日- 1952年2月6日 (56歳没)

前英国女王エリザベス2世の父。ヴィクトリア女王治世に生まれ、アルバートと名付けられた。幼い頃は虚弱体質で度々体を壊したが、14歳で海軍学校に入学し第一次世界大戦の際はドイツ海軍との戦闘に参加した。従軍当時は皇族である事を知られないようにジョンソンという名で通っていたという。

1936年に父王ジョージ5世が崩御し、予定通り兄のエドワードが英国王に即位。しかしながらアメリカ人女性ウォリス・シンプソンとの交際を続けていたエドワードは、在位から325日の日にラジオ放送で国王を辞職する事を国民に伝える。

当然弟のアルバートに白羽の矢が立つ訳だが、その知らせに一番驚いたのは本人であった。時は第二次世界大戦海戦間近、新国王となったジョージ6世は妻エリザベスと共に世界各国を訪問した。困難を乗り越えラジオで演説する姿は映画「英国王のスピーチ」で描かれ、世界中で大ヒットとなった。



英国王のスピーチ

ジョージ6世 (左)

映画「英国王のスピーチ」のポスター (右)

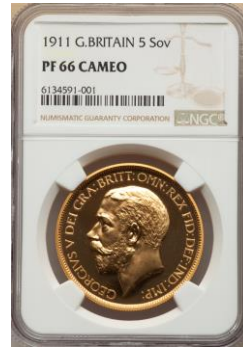
第一次世界大戦を指揮した厳格な国王

英国 1911年 ジョージ5世 5ポンド金貨

【発行枚数】 2,812枚 【サイズ】 35.50mm/39.94g

【希少性】 ★★★★★

【ご案内価格】 5,000,000円～（税込）



表面：ジョージ5世の肖像

GEORGIVS DEI GRA:BRITT:OMN:REX FID:DEF:IND:IMP:

（神の恩寵によるジョージ5世、英国王にしてインド帝国皇帝）

首元にB.M.（エドガー・ベルトラム・マッケナル=デザイナーのイニシャル）

裏面：馬に乗り竜を退治する守護神「聖ジョージと竜」のデザイン

5時位置にB.P.（ピストルッチ・ベネデット=デザイナーのイニシャル）

ジョージ5世 (George V)

在位：1910年5月6日 - 1936年1月20日

生没：1865年6月3日 - 1936年1月20日（70歳没）

1877年に兄とともに海軍兵学校に入学。

世界各国を船で訪問し続けたことから、「セイラー・キング（船乗り王）」と呼ばれる。

1881年10月には日本を訪れ、京都で狂言を鑑賞し腕に龍の入刺青を入れた。

1920年に日本の皇太子・祐仁親王（後の昭和天皇）が訪英した際は、親身になって歓待し「君臨すれども統治せず」という立憲王政のあり方を教えたという。

王位に就いた直後、内閣と貴族院の抗争問題への対処に取り組んだり、1914年の第一次世界大戦の開戦に伴い、父方の祖父がドイツ出身だったことから国民の反独感情を考慮し居城にちなんで“ウィンザー家”と改称する。

妻とともに戦地や野戦病院などを訪れ、国民と戦う国王夫妻として敬愛された国王。



ロシア王室とは親密な関係にあった英国王室。ジョージ5世（左）は当時から皇帝ニコライ2世（中央）と間違われる事が多かったという。時を経てヘンリー王子（右）にそのDNAは受け継がれている。

没後25年も未だ人気が衰えぬ元英国プリンセス

英国 1999年 ダイアナ妃追悼 5ポンド金貨

【発行枚数】 7,500枚 【サイズ】 36.00mm/39.94 g

【希少性】 ★★★★★

【ご案内価格】 1,500,000円～(税込)



表面：ダイアナ妃の肖像

IN MEMORY OF DIANA PRINCESS OF WALS FIVE POUNDS 1961-1997

(ウェールズ公妃ダイアナ追悼 5ポンド)

裏面：エリザベス2世の肖像

ELIZABETH II D G REG F D 1999

(神の恩寵によるエリザベス2世、信仰の擁護者)

ウェールズ公妃ダイアナ (Diana, Princess of Wales)

在位：1981年7月29日 - 1997年8月31日

生没：1961年7月1日 - 1997年8月31日
(36歳没)

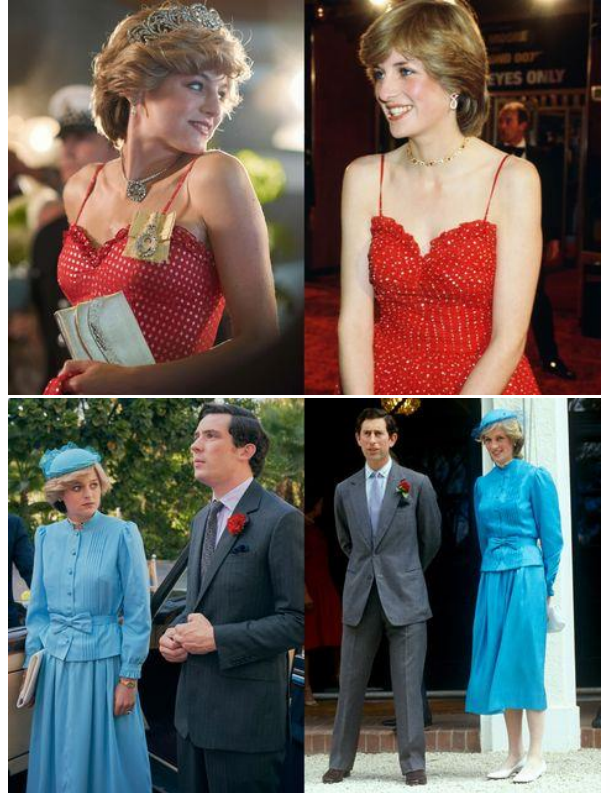
名門貴族スペンサー伯爵令嬢として1961年に生を受けたダイアナ。

1981年に英国王チャールズ3世（当時は皇太子）と結婚し、1996年に離婚。

彼女の行ったエイズ患者やハンセン病患者の訪問、地雷撲滅運動等のチャリティー活動は世界中に影響を与えた。

1997年にパリにて不慮の事故による死を遂げるも、彼女の人気は衰えていない。

発行枚数は7500枚と多いが、ダイアナの圧倒的な人気とロイヤルミント発行は当該の1枚のみの為2023年現在ほとんど市場に出ていない。



Netflixドラマ「ザ・クラウン」にてダイアナ妃（右）を忠実に再現したエマ・コリン（左）

三十年戦争の50年後に発行された平和を願った仔羊の金貨

ドイツ 1703年 ニュルンベルク 3ラムダカット金貨裸

【発行枚数】不明 (R4=11~20枚程度) 【サイズ】35.00mm/10.36g

【希少性】★★★★★

【ご案内価格】4,000,000円～ (税込)



表面：地球に乗る神の仔羊 (Agnus Dei = アニウス・デイ、キリストの分身とされる)

「PAX (ラテン語で平和)」と書かれた旗
PACEM DA NOBIS CHRISTE BENIGNE PAX

裏面：リボンで結ばれた3つの盾 (神聖ローマ帝国の鷲 (中央) と左右に2種類のニュルンベルクの紋章)
MONETA (貨幣 = Moneyの語源となったラテン語)、AVREA REIP (出産を司る女神エイレイテュイア)、NORIMB (ニュルンベルク)

中央に「GFN」= デザイナーGeorg Friedrich Nürnbergerの署名

ニュルンベルク (Nürnberg)



バイエルン州北部に位置する、ドイツ国内でも有数の芸術・歴史的に有名な都市。

13世紀になると神聖ローマ帝国から「帝国自由都市」として位置づけられた。また皇帝が住居を構えた事から帝国の中心地としても繁栄した。

アウグスブルク、ハンブルク等の商業都市の特徴としてユダヤ人が多く居住する事が見られる。ニュルンベルクも例外ではなく、中世から多くのユダヤ人が住んでいたが1298年8月1日に勃発した暴動では1000人近くのユダヤ人が殺害されるという事件が起こった。(血の中傷)

三十年戦争 (1618-48) では戦いの舞台となり、経済的にも物理的にも大きな被害を被ったが、終戦の翌年にニュルンベルクで「平和の宴」と呼ばれる祝祭が開かれ、人種・宗教に関係なく杯を交わした。



(右) 神の仔羊

左と同様、仔羊が生贄となる事により人間の罪を負う事を表している。

(左) 聖杯に血を流す仔羊

仔羊 = キリストの分身である事から、キリスト血を流す事により全ての人間の罪を負う事を表す。

